



あなたがいる わたしがいる 未来がある！

6月は男女共同参画推進月間です。

近ごろは、家事や育児に関わる男性も増えてきていますが、いまだに家庭での役割のほとんどを「お母さん」が担っている状況です。高齢化社会に拍車がかかり、労働力不足が見込まれる中、女性の労働力が必要とされています。また、高度経済成長期も終わり、雇用状況の変化から、男性一人が家計を支えていくことも困難になりつつあります。

男女がお互いによりきパートナーとしてあらゆる分野に対等に参画し、個性や能力を発揮し、かつ責任を分かち合うことにより、ともに豊かな人生を築くことが男女共同参画社会の目指す姿です。

男女共同参画の必要性

社会経済情勢の視点



神山地区の生涯学習の集い

葦崎市男女共同参画推進委員会では、「輝いて ひらめいて 葦崎プラン」に基づき、男女共同参画社会の実現に向け、家庭、職場、地域、学校など社会の様々な分野における課題解決に向けた活動を行っています。

急激に進む少子化

2011年の日本の合計特殊出生率は1.3人

少子化の主な原因は晩婚化や未婚者の増加により、

女性一人あたりの生涯出産数が減少していることです。

世界保健機構（WHO）によれば、合計特殊出生率（1人の女性が一生の間に産む子どもの数）が2.08人を下回ると総人口は減少に向かうとされ、この数字を目安として少子化と呼ばれることになっています。

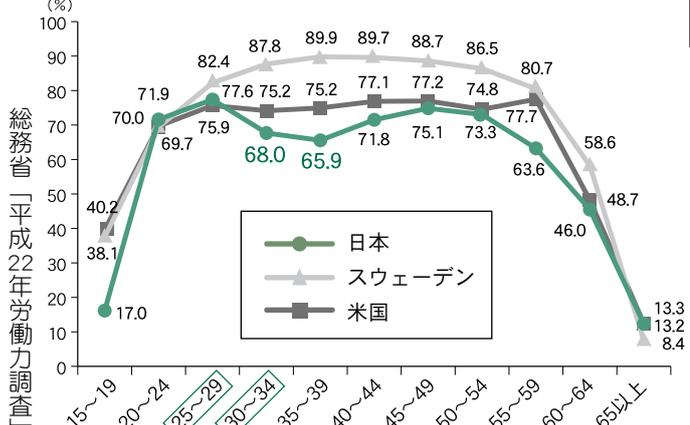
※少子化が進むと、労働力人口が減少していくことが予想され、産業活動の担い手が不足し、日本の経済成長が妨げられることが問題視されています。

女性の労働力率と子育て期の男性の長時間労働

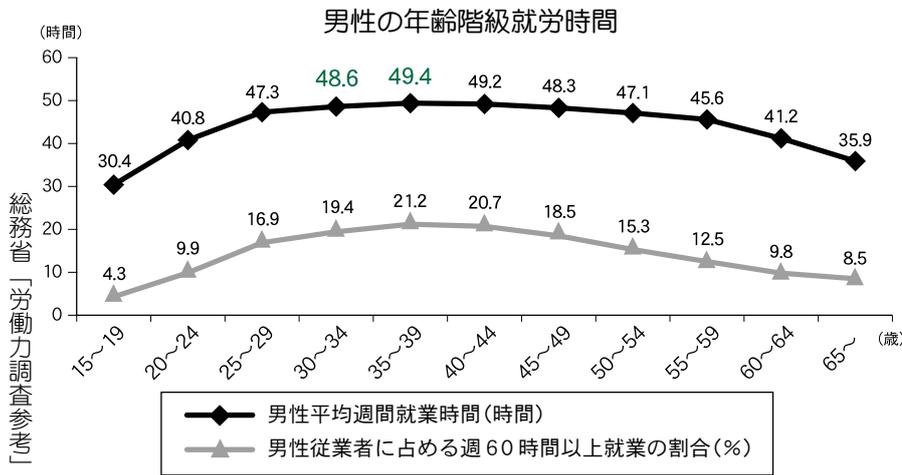
日本人女性の労働力率は国際的に見て低く、特に子育て期に当たる30代で労働力率が減少するのが特徴です。

少子化による労働力率の減少に対応するためには、働きたいと思う女性が社会進出できるよう、家族のサポートや環境の整備が不可欠です。

女性年齢階級労働力率（国際比較）



※労働力率とは、15歳以上で働く意欲を持つ人がどれだけいるかを示す率。



しかし、子育て期にあたる30代男性の平均労働時間は生涯のうち最も多く、育児に参加できない状況から、妻への負担が多くなり、就労や出産を諦めることも多くあります。

母親への育児負担の集中は少子化の一因となっています。

男女共同参画の様々な活動

各地区の活動紹介

市内各地では男女共同参画を目指し、さまざまな活動が行なわれています。

昨年度の各地区の活動を紹介します。

「夫婦が互いに家事を協働することで、感謝の言葉が自然に出るようになりました。」

穂坂地区では公民館活動の一環として巡回講演会を開催しています。

平成二十三年度は、男女共同参画ミニ講演を取り入れ、穂坂地区と葦崎地区の男女共同参画推進委員が、三ツ沢分館において、手作りの資料により「なぜ男女共同参画が必要か」

について、歴史的背景や法的根拠に基づいた施策や国、県、市の取り組みを発表しました。

また、年間活動の一環である「男女共同参画モデル家庭」の実践結果報告では、「夫婦が互いに家事を協働することで、感謝の言葉が自然に出るようになり、充実した毎日が送れた。」など、相手に対する感謝の気持ちが入められた感想を発表しました。

今回の男女共同参画ミニ講演を通じ、それぞれの家庭に適した夫婦の役割分担について考える良い機会となり、家庭や地域における男女共同参画の推進に繋がることを願っています。

男性も料理に挑戦

「料理は楽しい」

藤井地区では食生活改善

推進員との共催により、藤井公民館において「男性の料理教室」を開催しました。

食生活改善推進員の指導のもと、今回の料理のメニューである「ぶり大根」と「ほうれん草の白和え」に使用するたくさんの食材に戸惑いながら、慣れない手つきで調理している姿がとも印象的でした。

また、「大根の皮のむき方や面取りをすれば煮崩れしないこと」など、料理に対する基礎知識も学びながら、和気あいあいのうちに完成しました。

食後には、栄養士より、これまでの食生活に関する注意や、バランスの取れた食事に関する指導がありました。

今回の男性の料理教室を通じて、「料理作りは楽しい」ということを再認識し、今



穂坂地区の男女共同参画ミニ講演

後、各家庭において一人でも多くの男性が腕を振るつことを期待しています。

※穂坂・中田・清哲・神山・大草町においても男性の料理教室を食生活改善推進員との共催で開催しました。

「公民館活動との連携」

神山地区では「第二十六回生涯学習の集い」において、来場者と共に「葦崎市男女共同参画フォーラムの歌」を合唱しました。

あらかじめ配布した歌詞カードを使い、推進委員の解



男女共同参画の実現

説とリードで、全員が声高らかに合唱して、男女共同参画の理念について理解を深めました。

当日は、推進委員手作りのラベンダーのポップリ（解説付き）を「男女共同参画シンボルマーク」とともに来場者に配布し、活動への理解と男女協働意識の向上を図りました。

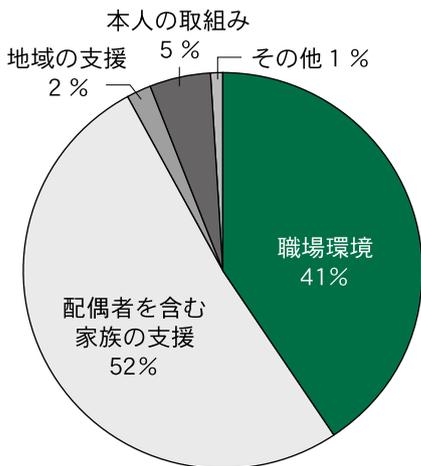
男女共同参画の推進には継続した活動が重要であり、地道な活動を重ねていくことで成果に繋がるものと考えています。

女性の育児と仕事の両立に必要な家族の支援とその現状

子育てをしながら働くためには、子育てに理解のある職場の整備や、家事・育児への家族の支援が求められています。

しかし、男性の現実には、仕事優先が最も多く、理想は仕事と家庭を両立させたいと考えていても、仕事を優先せざるを得ない状況であることがわかります。

子育てをしながら働くために必要なこと



内閣府男女共同参画局「平成19年女性のライフプランニング支援に関する調査」

結婚・出産後も仕事を続けたいと思っ
ている女性は
大勢います。
しかし、実際
には、それを
きつかけに仕
事を離れざる
を得ない女性
も少なくあり
ません。



男女共同参画シンボルマーク

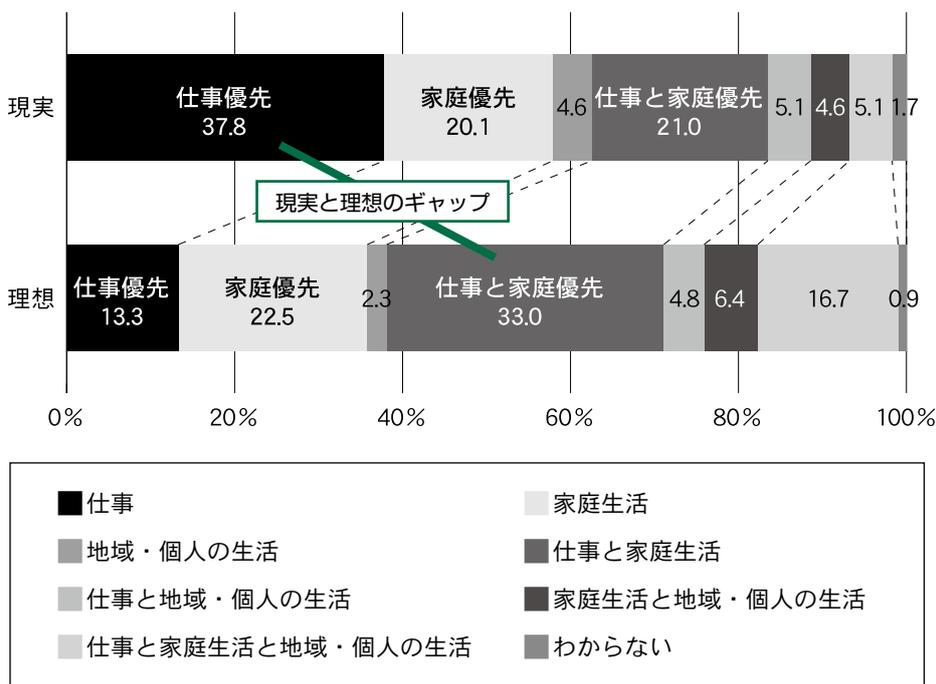
人生プランの中で「仕事か子育てか」の二者択一を迫られることなく、仕事も子育ても両立できる社会的条件を整えることで、子どもの出生率の回復に繋がります。

また、男性も、仕事だけでなく、育児や介護など家庭のことにもっと関わりたいと考える人が増えてい

ます。男性も女性も、育児・介護休業制度などを利用しやすくなるよう、職場の環境を変えていくことが必要です。

「男は仕事、女は家庭」ではなく、これからは、「男も女も、仕事と家庭を両立」を考え、一人一人が日常

男性の「仕事」「家庭」「地域・個人の生活の関わり方



内閣府「平成20年男女共同参画社会に関する世論調査」

たり前だと思っていることを見つめなおすことが大切
です。

「女だから・・・」「男だから・・・」ではなく「自分らしく」生きることにより、私たちのまちに男女共同参画社会を実現しましょう。

■お問い合わせ

企画推進担当
(内線357)